

現状と課題（A欄）

（現基本構想の進捗検証・評価）

【全体】

高円寺地域では、文化施設である「座・高円寺」と商店街が連携した様々な取組が生まれた。現在、商店街全体を劇場にするという発想で取組が上手く進んでいる。

“農”とのふれあいの機会が充実してきている。

（今後の社会環境や区民生活・意識の変化等の新たな視点）

【全体】

杉並は区部西側に立地し、豊かな住宅環境があることから、イノベーションや新しいアイデアが生まれやすい。

職住一致の働き方が増えていく中で、区に住んで、区で働く人にとって過ごしやすいまちという視点が必要となる。

杉並は、農福連携の取組や都市農地の保全に強みを持っている。

特定生産緑地制度により、長く営農できるようになったが、担い手が少ない状況は続いていく。ただし、農地の減少幅は、農地の貸借制度等により、小さくなっていくと予想される。

目指すべきまちの姿（B欄）

- （目指すべきまちの姿）
- ① 良質な住環境と産業が調和した、新たな文化・イノベーションが生まれ、にぎわいのあるまち
 - ② 多様な人々が働き、豊かな生活を実感できるまち
 - ③ 区内のみどり（公共財）を共有し、共に支え合い守りつないでいくまち

（目指すべきまちの姿を設定した考え方など）

- ① 住宅都市であることを踏まえ、都市と産業の共生・共存を目指すという視点が重要である。
- ② 社会的な困窮者を生み出さないことは、産業政策のみならず地域の安定性を高めるためにも重要である。
- ③ 農地を公共財として捉え、多くの人に関わっていくことが重要である。
生物資源の保全と活用（地元食材の活用）により、農地の質を高めていくことが重要である。

「目指すべきまちの姿」に進んでいくための 第1部会—資料32
基本的な方向性など（C欄）

（基本的な取組の方向性）	（具体的な手段・方法、取組など）
①良質な住環境と産業が調和した、新たな文化・イノベーションが生まれ、にぎわいのあるまち	
商店街支援や観光促進に文化的な視点を入れて、まちのにぎわいを創出する。	文化活動の発表の場をアニメーションミュージアムなどに用意するほか、外国人観光客の誘致に向けて、区内に存在する日本文化に関する様々な資源を発掘する。
観光事業の推進に当たって、近隣区や交流自治体のほか、様々な組織・利害関係者との連携をさらに強化する。	商店街のほか、景観づくり、公園整備、農地保全や交通施策などと連携した取組のほか、ボランティア等を活用した観光事業を推進する。
②多様な人々が働き、豊かな生活を実感できるまち	
多世代やジェンダーレスなど様々な働き手が働く機会を持てるように、就労支援や地域の産業支援を推進する。	就労支援センターにおいて、ハローワークや福祉事務所等の関係団体との連携をより強化しながら、伴走型、そしてオーダーメイド型の就労支援を充実させる。
在宅勤務などが浸透していく中で、他区に比べて杉並区が住みやすく、かつ働きやすい魅力的な場所であることをブランディングする。	宣伝効果が大きいYouTubeやInstagram等のICTを活用した魅力発信を行う。
③区内のみどり（公共財）を共有し、共に支え合い守りつないでいくまち	
農業を産業、また農地を公共財として捉え、保全に向けて行政が積極的な関与を図る。	都市農地の保全について、税制度などの改正・改善に向け、国や東京都、JAなどの関係団体との連携を強化するとともに、貸借制度の活用に向けた取組を推進する。
多くの区民や企業等が農にふれあう機会を創出するとともに、地元食材の活用等により、農地の質を高める。	区民農園や農福連携農園等の取組をさらに充実させるとともに、地産地消の取組を進める。